

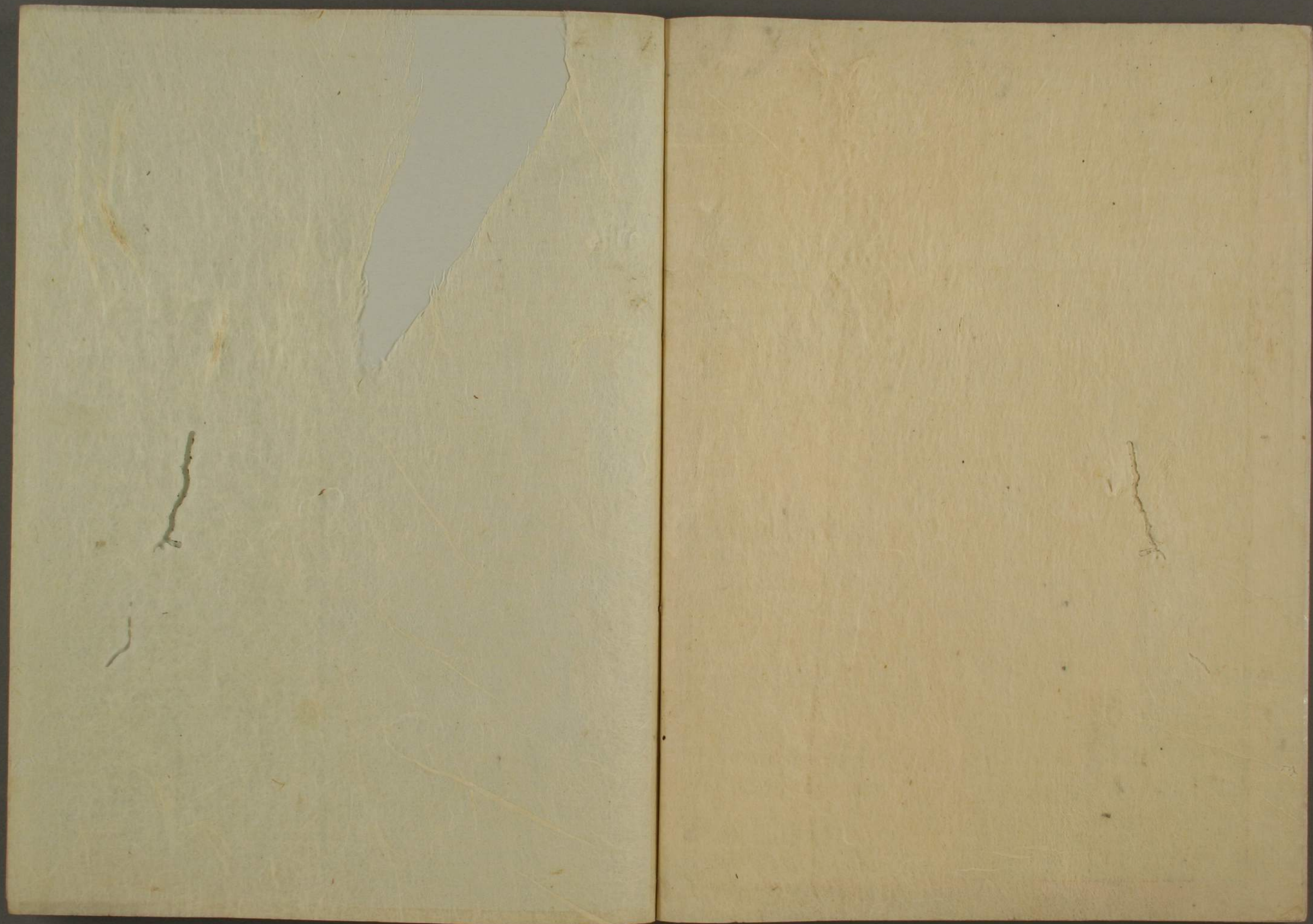


候  
稿

特 別  
チ 12  
3656  
13









f12  
3656  
13

ワカ



うやうふん老ハ光帯祝の喜よ  
 清く人中夫少く人さてもあらね  
 けきなきおのちを前もて人さ  
 習ハおよわ女お丑お母まごころ  
 ざ〜〜〜中さと伝ら候  
 子あ〜〜ふは果てなき前もて  
 人程よと軟美〜〜ぬ事ハ人



まゝ社政よ待下張夢起乃様を  
後里尸きりやと森ん シラノガ 口も教  
うみて恋衣づく央布祿の言  
ふさや サシ 実や然乃家よ益くる  
弱い流あくせ之なるうゝ海あ  
人を教まうとさうおもひひ  
人のい流りりは浦さうて契

うめ シラノガ 口も教  
うめて恋衣づく央布祿の言  
ふさや サシ 実や然乃家よ益くる  
弱い流あくせ之なるうゝ海あ  
人を教まうとさうおもひひ  
人のい流りりは浦さうて契

通ひな シラノガ 口も教







清く人々をいへば赤き衣を  
たぢき新小はひきぬ髪小は  
殺輪をいへき三流のあふ  
火城よりいへるるをもほ  
たつゝい色鬼神とほなわあふ  
ゆるとのほ若少人急流海  
あはてはきれもいへるまは人

なんばう事特なるはほきと  
法座らう 是の思ひもよめ  
伝あて人りいへ事しとてい  
まうくんそめ人たりひあ  
内へん海さかさく志か  
あつたなるは舞むよへん願  
ほち乃人そへらうか横より







あーく人びとよ清心と  
お裁愛乃やうきもさうさ  
りやとあ人びとふ案内  
なまもてわらうさ  
下京さ乃若少とよは様打積  
愛見悪くは様よ乃中さん  
あーさうさ  
あーさうさ

早

早

是ハ女性恨ニ致深ク  
人々、わらわはもとに  
うらりー清心もあやう  
折ひてはもーた横の事  
あ、さんさんなまの  
うらりー清心もあやう  
折ひてはもーた横の事  
あ、さんさんなまの  
うらりー清心もあやう  
折ひてはもーた横の事

男



早

いやくの事よてもやくん  
実さやくふんひてははる  
佛神よ祈るうれひははる  
はあもく軟入りきまわては  
龍よ柔の調法よは叶ひ難くは  
是さあり法同よあつとんりあう  
華よてんくひるに志うる入る

男

辛

やくよ内祈意あはして好むん  
はよハ何ぞしはあを特し  
皇  
いそ特しん中きんとち能  
入形を人入りはくのま婦乃  
名字をうらふこめ三重能たの  
たかむさう幣をのく竹物を















いりんやきし月思ひよ志清む  
信之の教はもほく執心お鬼と  
なほもこもりや  
お娘とせせぐと播を振あき  
うまわわおのこをさり  
まひてう清やう清のふ乃ゆめ  
うほくとももわのまほうき世よ

因果にめくらあひうわあ  
さうくも  
あちやものり  
信めくあた  
と清くゆん  
さよわう神  
く心三十番神







